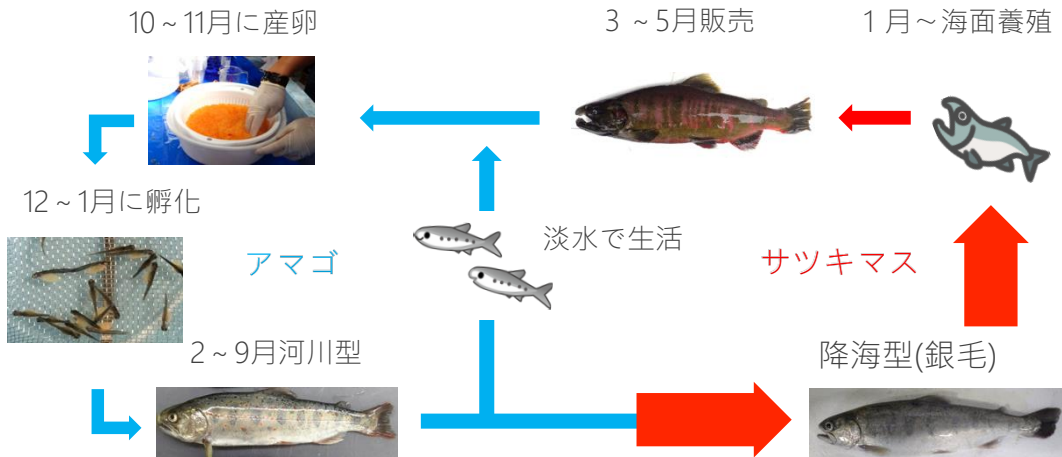


愛南町型サツキマス養殖に関する研究

問合せ先:南予水産研究センター 西浦ステーション TEL(0895)-73-7112

アマゴは西日本に分布するサケ・マス類である。海に下ったアマゴはサツキマスと呼ばれ大型化する。愛南町では、アマゴを冬季に御荘湾に移送することで、サツキマス養殖を行っている。効率的な養殖を行うためには、海水馴致能の優れた個体をする必要がある。本研究では、高負荷海水適応試験による海水適応能力の評価法を検討した。

愛南町でのサツキマス養殖

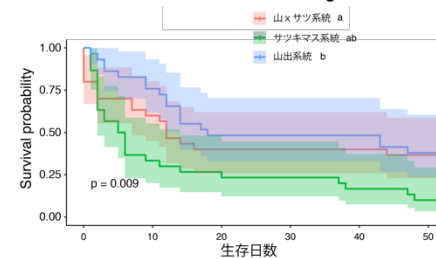
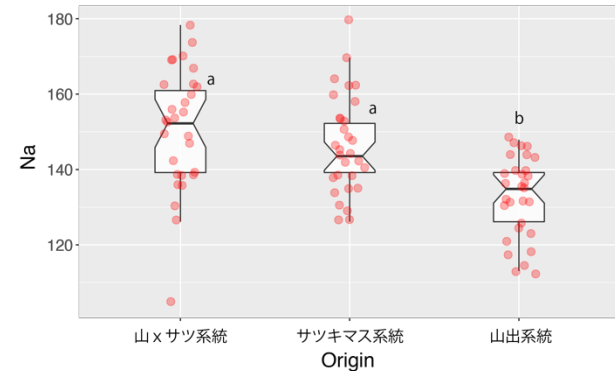


海水適応できなければ死亡率が高まる。
うまく海水に適応できない個体は育たない。
→ 本研究:よりよく海水適応できる個体を選抜する!

実験

実験: 海水適応後の血中ナトリウム量の測定

仮説: 海水適応能が高い個体は血中ナトリウム能が低い?



血中ナトリウム濃度が低いグループは海水中での生存率が高かった

まとめ

海水馴致直後の血中ナトリウム濃度を測定することで、海水適応能が高い個体を効率的に選別することができる。
今後は高成長に相関のある指標の探索を行う必要がある。